

研究会レポート

防災研究会

(社)日本技術士会北海道支部／
北海道技術士センター

市民の防災意識を考える — 第11回防災セミナー開催報告 —

平成18年11月27日(月)に寒地土木研究所講堂にて、第11回防災セミナーを開催しましたので報告します。

今回は、「都市型災害に備えて — 市民の防災意識を考える —」と題して、北海道における災害図上訓練(以下、「DIG」)の第1人者であります北海道教育大学学長室補佐の佐々木貴子助教授に講演をいただきました。

「DIG」とは、Disaster (災害)、Imagination (想像)、Game (ゲーム) の頭文字を取って名づけられた、誰でも参加できる防災訓練プログラム。英語のdig (動詞) には、「掘り返す、探求する、理解する」という意味があり、「防災意識を掘り返す、地域を探求する、災害を理解する」という意味も重ねて名づけられています。

佐々木助教授は、阪神淡路大震災直後から、「防災の視点を取り入れた家庭科教育のあり方」に関する研究に取り組みされており、この研究を通して学校と地域社会を連携させる教材として「DIG」を活用されてきました。平成12年に北海道教育大学函館校に着任してからは、道内各地での普及活動を精力的に進められています。

■セミナーの概要

(1) 防災への「教育」が果たす役割

平成18年度の防災白書では、災害被害は誰にでも起こりえる脅威であり、安全・安心に価値を見出し、以下の行動を進めることが提起されています。

- ・明日は我が身・家族に降りかかる災害への自覚
～災害被害のイマジネーション能力を高める
- ・地震から命と暮らしを守る
- ・地域コミュニティ防災への多様な主体の参加と連携を広める
- ・高齢者等災害時要援護者の命と暮らしを守る

佐々木助教授は、そのためには防災の視点から地域力を向上させることが必要であり、21世紀における「共生社会」に向けてはボランティア活動やNPO活動が求められており、「市民としての生活者に、人と人、人と物との関わりを問い直し、他の命に及ぼす影響に配慮した生活をするという精神を教えること」が、教育の果たすべき役割だと提言されています。

そして、その手段として、高齢者も、子供も、障害がある人も、一緒になって災害をイメージしながら、ゲーム感覚で訓練ができる「DIG」を積極的に活用されておられます。

[プログラム]

- 15:00 開会
挨拶 防災研究会会長 高宮 則夫
- 15:05 講演
「防災の視点から地域力を考える
— 災害図上訓練 (DIG) を踏まえたまち
育て・人育て —」
北海道教育大学学長室補佐助教授 佐々木貴子
- 16:45 意見交換
- 17:15 閉会
- 17:30 情報交換会 (敬称略)



写真-1 札幌市真駒内地区での
佐々木助教授による「DIG」の様子

(1) まち育て・人育て

阪神淡路大震災を契機に、「自分の命は自分で守る：自助」、「自分たちの地域は自分たちで守る：共助」の重要性が叫ばれ、今後の防災減災対策における基本方針にも謳われています。そして、そのためには地域住民による自主防災組織が重要な役割を担うこととなりますが、人的資源の問題など課題が多く、十分にその機能を発揮できていないのが現状であり、佐々木助教授は、こうした自主防災組織をターゲットに「DIG」による地域力向上に取り組んでおられます。

最初の取り組みとなった函館市青柳町内会では、当初、耳も貸してもらえない状況からスタートしたようですが、「DIG」の訓練を契機に、現在ではお揃いの防災服に身を包み、豊富な用具を揃えて、定期的に防災訓練を継続している様子が紹介されました。

津波被害を乗り越え、ハード対策による復興が進む奥尻島では、「DIG」と共に行われた「まち歩き」の結果、ソフトの課題が再発見され、地域防災計画の見直しに繋がる具体的な成果が得られています。

また、江別市では、聾啞者の方たちと手話通訳のボランティアと共に、教育大学の学生が参加した「DIG」を継続していますし、函館市や旭川市では小学校を会場に子供達からお年寄りまで地域住民が皆で参加している様子が紹介されました。

こうした「DIG」を通じた取り組みにより、子供達からお年寄りまで、防災減災活動に向けた「人育て」に繋がり、結果として、自主防災組織すなわち町内会、そして、「向こう三軒両隣」の交流が見直され、



写真-2 旭川市立朝日小学校での「DIG」の様子

「まち育て」へと展開することが期待されています。

■北の暮らしに役立つ防災コラム＆豆知識

防災研究会の検討課題の一つであります「防災減災文化に関する調査研究」の具体的な取り組みとして、防災に関する Web サイト「北の暮らしに役立つ防災コラム＆豆知識」を開設しました。

下記の URL、もしくは、防災研究会ホームページのコンテンツにあるバナーからアクセスすることができます。

URL：<http://blog.goo.ne.jp/h-eng/>

今のところ、北海道の災害年表、異常気象や津波などの豆知識、そして、数編の投稿コラムにより構成されているレベルではありますが、将来は広く市民への情報発信を担う「防災ブログ」へと育てていきたいと考えており、そのためには、当面、会員の皆様の積極的な参加が必要となります。

現在、サイトの運営上制限をかけており、直接書き込むことが出来ませんので、投稿していただける場合は、下記のアドレスに原稿を送信いただくと幸いです。皆様の参加をお待ちしています。

E-mail：h-eng-blog@ces.co.jp

■今後の研究活動に向けて

佐々木助教授の講演の中で、この9月1日（防災の日）に放映されたNHKの報道番組「クローズアップ北海道：その時、あなたを誰が守る ～急がれる災害弱者対策～」が紹介されました。

登場する札幌市内の自主防災組織等は、すでに具体的な防災減災活動を進めており、その取り組みは災害時要援護者への対応のレベルまで進んでいます。

佐々木助教授からは、是非、技術士も「DIG」に参加して欲しいとラブコールもあり、当研究会の活動が、机上の調査研究のレベルのままで良いのか、あらためて考えさせられました。

新たなスタートとなる平成19年度。研究会活動に向けたテーマ設定にあたり、「技術士による社会貢献」、「市民への情報発信」の必要性について、再認識する機会となりました。

(文責：防災研究会幹事長 城戸 寛)